



第41期 年次報告書

平成22年4月1日 ▶ 平成23年3月31日

palro[®]



talk with tomorrow

富士ソフト 株式会社

富士ソフトユニークで国の競争力強化に貢献し、 グローバル経済発展にも寄与する存在感のある企業グループへ



代表取締役社長

白石晴久

株主の皆様には、平素格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

第41期年次報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、アジアを中心とした海外経済の回復を背景に輸出の持ち直しや、企業収益の改善といった一部回復の兆しが見られたものの、未だ雇用情勢や所得環境の低迷が続き、急速な円高の進行や株価の下落といった要因もあり引き続き不透明な状況で推移してまいりました。また、平成23年3月には東日本大震災が発生し、国内経済に甚大な被害をもたらしました。

当業界におきましては、企業のIT投資への慎重な姿勢・低コスト志向は続いており、厳しい環境下で推移してまいりました。

このような情勢の下、当社は経営方針である「安定収益基盤の強化」と「成長エンジンの確保」を目指して活動し、中期基本方針として「強みを生かした市場創造! 存在感あるユニークな企業グループへ」を掲げ、システム開発力、組込技術等の強みを融合させ、グループシナジーによる付加価値を創造し、グループ独自の技術力を提供してまいりました。

この中期基本方針の下、当社グループは「骨太の戦略～五つの柱～」(受託ビジネス基盤の強化・プライム化の推進・プロダクト化の推進・グローバル化の推進・グループ力の強化)を掲げ推進してまいりました。

受託ビジネス基盤の強化・プライム化の推進においては、プロジェクト管理の徹底、共通フレームワーク適用による開発作業の標準化・合理化、品質の安定化と低コストを実現させて収益の向上に努めてまいりました。

プロダクト化の推進においては、Android OSの組込機器への本格的な普及やスマートフォン市場の急速な拡大を見込み、ワンセグ機能を実現するソフトウェアパッケージ「FSDTV Mobile for Android」を製品化して販売、さらに、「FSKAREN」(当社開発の効率良い日本語文章入力を実現する、かな漢字変換システム)のAndroid OS対応版「FSKAREN for Android」の製品化や、直感的な操作性を備えたスケジューラアプリ「Refills for Android」を製品化して販売してまいりました。

成長エンジン候補のひとつとして位置づけている“シンククライアント+SaaS”については、第一弾として企業の情報をパソコンに残さないモバイルシンククライアントの提供を開始し、同時にシンククライアント機能と高速モバイル通信機能を一体化させたUSBタイプのデータ端末「FSMobile for Thin Client」を開発し、平成22年5月に発売をいたしました。

クラウドビジネスにおきましては、平成22年12月に関西初のクラウドサービス拠点として「マイクロソフトソリューション&クラウドセンター大阪」を開設することにより、幅広く関西をカバーする体制を整備いたしました。また、今まで力を入れてきたパブリッククラウドサービスに加え、

平成22年10月には流通や医療をはじめとするプライベートクラウドサービスを提供するためのクラウド基盤を構築し、平成23年2月より流通業界の受発注業務を提供する流通BMSソリューション「FSCloud EDI」の提供を開始いたしました。同年3月には、ネット通販向け物流在庫管理システム「FSCloud Logistics」の提供を開始いたしました。

さらに、平成23年1月より株式会社セールスフォース・ドットコムと協業したことにより、短期間かつ低コストに開発できるサービスを活用して、CRM（顧客管理）の導入や業務システム構築を提供することにより、お客様の営業力強化、業務効率の向上に貢献してまいりました。これによりGoogle Appsと連携したグループウェアの販売など、幅広い選択肢の中からお客様に最適なクラウドサービスをお選びいただくことが可能となりました。

ロボットテクノロジーの分野におきましては、ヒューマノイド・ロボット“PALRO”（パルロ）の開発で培った知能化技術ソリューションを他の組込機器へ展開し、ソリューションとして新しい付加価値の提供を図ってまいりました。

グローバル化の推進においては、アジア市場を中心とした新興国に着目し、取引拡大を図ってまいりました。当社連結子会社であるサイバネットシステム株式会社においては、平成22年7月に全体最適化ソリューション分野の代表的なツール「OPTIMUS（オプティマス）」（複数のCAEソフトウェアを連携させて解析及びシミュレーションを容易とさせるソフトウェア）の開発会社であるベルギー王国のNoesis Solutions NVを子会社化し、グローバル販売体制の強化や新製品開発体制の強化及び推進を図ってまいりました。なお、当社連結子会社であるウィンキュラムジャパン株式会社の中国子会社でありオフショア開発の拠点として機能している維傑思科技（杭州）有限公司において、合併により上海新城系统集成有限公司を新設し、平成23年4月より新たな事業として中国全域でのネットワークの販売、貸し出しやeコマースソリューションサービスを展開してまいります。

グループ力の強化においては、経営資源の効率化を図るため前年度同様、グループ全社での業務効率化によるコスト削減やクロスセルを推進してまいりました。平成23年1月には当社連結子会社でありました株式会社V&Vを吸収合併し、組込みソフトウェアの開発と評価を一括で受注可能な体制とすることで、今後の収益性の確保と品質保証事業の拡大を図ってまいりました。また、昨年度に引き続き、「リテールテック JAPAN 2011」には、グループ3社共同で出展をし、流通BMSソリューションやプライベートクラウドといった流通系向けソリューションをお客様のニーズ別に提案してまいりました。

研究開発については、筑波大学と協同で「ディベンダブルな自立連合型クラウドコンピューティング基盤の研究開発」を進めているほか、東京大学医学部附属病院などと協同で再生医療研究を進めてまいりました。また、産学技術振興機構の産学イノベーション加速事業平成22年度企画研究課題に当社が参画する「成長する個人差対応高齢者見守りロボットシステム」の研究が採択されました。

その他、CSR（企業の社会的責任）活動としてロボット作りを通じて

「ものづくりの楽しさを伝える」場を提供することを目的に「第22回全日本ロボット相撲全国大会」、「第6回高校生ロボットアメリカンフットボール全国大会」を引き続き開催いたしました。

当連結会計年度の業績につきましては企業のIT投資への慎重な姿勢や厳しい経営環境の結果、売上高は1,347億45百万円（前年比4.9%減）となりました。しかし、経費削減に取り組んだ結果、販売費及び一般管理費は276億56百万円（前年比3.2%減）と減少し、また売上原価率の改善もあり営業利益は37億93百万円（前年比15.2%増）、経常利益は36億47百万円（前年比1.5%増）となりました。

また、特別損失に事務所移転費用や、子会社において退職給付制度終了損を計上した結果、当期純利益は25億11百万円（前年比32.3%減）となりました。

今後の取り組みにつきましては、「富士ソフトユニークで国の競争力強化に貢献し、グローバル経済発展にも寄与する存在感のある企業グループへ」を平成23年4月策定の第一次経営計画ビジョンとして掲げ、スタートさせてまいります。事業構造の転換・収益体質の強化・グループ一体運営・経営インフラの強化を図り、以下の「骨太の戦略～五つの柱～」を強力に推進してまいります。

①受託ビジネス基盤の強化、プライム化の推進

お客様対応力の強化に努め、当社グループ一体でお客様情報を共有し組織的なRM（リレーションシップ・マネジメント）を推進してまいります。同時に技術者の育成や標準開発環境を構築することで、着実な生産性の向上を図ってまいります。

②プロダクト化の推進

当社選定の成長エンジン候補（流通クラウド・シンクライアント+SaaS・海外マーケット・ロボットテクノロジー（知能化技術））推進のほか、新しい成長エンジンの創出のため、ロボットテクノロジー（知能化技術）との技術融合を促進させ、業容の拡大を図ってまいります。また市場規模の拡大期を迎えているクラウドサービスにおいて、パブリッククラウド・プライベートクラウドのサービス展開・グループでの連携によるクラウド事業の促進を加速してまいります。

③グローバル化の推進

当社グループ独自のユニークな技術をもって直接海外でプロダクト・サービスを展開し、海外市場でのビジネス展開を促進してまいります。また、中国でオフショア拠点として活用しております当社連結子会社である維傑思科技（杭州）有限公司では、組込システムなどの開発案件を受注し、価格競争力を高めてまいります。その他、海外へ進出するお客様をサポートしてまいります。

④グループ力の強化

グループ一体運営に向けて協働体制を確立し、よりよいサービスを提供するためグループのシナジー効果を図り、お客様対応力の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、何卒一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

JPPGG戦略の歩み 『第一次経営計画』がスタート

2011年4月 『第一次経営計画』スタート
「戦略の立ち上げ」から「成長エンジンの点火・飛躍へ」



「五つの柱『JPPGG』戦略」



受託ビジネス基盤の強化

当社の「コアビジネス」である「受託ビジネス」を、より収益性が高く強固なものにしています。



プライム化の推進

「受託ビジネス」の中でも下請けではなく、ユーザーのITソリューションに総合的に対応する「プライム受注案件」を伸ばします。(労務提供型→受託開発型→技術提供型→研究開発型への経営転換)



プロダクト化の推進

ひとつの企業だけに適用するシステム(1:1)ではなく、多くのお客様に通じるパッケージ群・サービス群(1:N)の開発・提供を推進することで、当社技術の有効活用・取引顧客の拡大を狙います。



グローバル化の推進

当社グループの更なる発展とグローバル化への対応のため、市場を世界に拡げていきます。



グループカの強化

自立・再編・共有・団結をより一層推し進めていき、グループシナジーの創出を目指します。

Topics

東日本大震災復興支援の取り組みについて

この度の東日本大震災により被災された皆様には謹んでお見舞い申し上げます。

皆様の安全と一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

当社では、東日本大震災で甚大な被害を受けた日本経済の復興に貢献すべく、被災地や被災者の皆様に向けて、全社一丸となって義援金の寄付や復旧・復興に向けた支援に取り組んでまいります。

3月23日に復興支援プロジェクトチームを立ち上げ、復旧・復興に向けた支援活動に取り組んでおります。

具体的な取り組みについては、以下のとおりです。

社内WEB閲覧サービス

富士フィルム株式会社と共同で、東日本大震災で被災された法人の皆様向けに、携帯電話・スマートフォンを使って閲覧できる「社内Web掲示板サービス」を無償で提供いたします。

東日本大震災 ICT支援応援隊

社団法人日本経済団体連合会(経団連)、一般社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)、社団法人コンピュータソフトウェア協会(CSAJ)など、ICT分野に関連する8団体が立ち上げた「東日本大震災 ICT支援応援隊」に応援企業(サービス)として参加しています。

義援金

当社では、被災された方々の救援および被災地の復興にお役立ていただくため、義援金として5,536,314円を寄付させていただき、当社社員による義援金5,536,314円を合わせて、総額11,072,628円を日本赤十字社を通じて被災地に寄付いたしました。

セールスフォース・ドットコム 復興支援策

株式会社セールスフォース・ドットコムの復興支援策に導入支援企業として参加しています。

※上記の取り組みは、2011年4月21日現在のものです。

暮らしの中の富士ソフト

「FSKAREN® for Android™」をダウンロード販売

～Android搭載端末対応の日本語入力システム～

当社は、(GoogleのAndroid Market®にて、)Android OSに対応した日本語入力システム「FSKAREN for Android(エフエスカレン フォー アンドロイド)」のダウンロード販売を開始いたしました。

FSKARENは、単語予測や文章の予測により、日本語を少ないキー操作でスムーズに入力する入力システムです。当社は1997年より、FSKARENを携帯電話や組込み機器向けに販売してまいりましたが、スマートフォンを始めとするAndroid搭載端末の普及拡大を見据え、昨年11月にAndroid対応の「FSKAREN for Android」をAndroid端末メーカー様向けに販売開始いたしました。さらに、幅広いお客様にご利用いただくために、この度一般のお客様に向けダウンロード販売を行うことにいたしました。

「FSKAREN for Android」ダウンロード版は、「予測変換機能」や「文節変換機能」以外に、「2タッチ入力機能」やタッチパネルに対応した「フリック入力」機能を搭載しています。また、これまでオプションとして搭載していた「手書き入力」機能を標準搭載しています。

※AndroidはGoogle Inc.の商標または登録商標です。

※FSKARENは富士ソフトの登録商標です。

※記載している会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。



富士ソフトのクラウド

当社では、クラウドコンピューティング市場でトップシェアを獲得するために、様々な施策を実施しています。

<富士ソフトのプライベートクラウドシリーズ>

当社が平成22年10月に構築したプライベートクラウド基盤を活用したオリジナルのクラウドサービス『FSCloud』を提供

現在、当社グループが最も得意とする流通分野に特化した「EDI」「物流管理」「雇用管理」の3サービスを『流通クラウド』として提供しています。引き続きラインナップの拡充をはかり、流通クラウド分野におけるリーディングカンパニーを目指すとともに、他の業務分野へも拡大することで収益性の高い成長エンジンに育てていきます。



FSCloud®EDI

流通業界の受発注業務をクラウドサービスで最適化する流通BMSソリューション

流通業界の受発注業務をクラウドサービスで最適化する流通BMSソリューションは、チェーンストア各社と卸売・メーカーとの受発注業務の効率化を図ることを目的に、経済産業省と流通システム開発センターによって推進されています。消費環境の厳しさが増す中で、チェーンストア各社ではコスト削減に取り組みされており、業界標準の流通BMSを採用することによって、煩雑な個別対応システム開発の解消、通信コスト・通信時間の低減、伝票レス・検品レスの実現等、流通業界全体のコスト削減が可能となります。

FSCloud®Logistics

クラウドを活用してネット通販物流を効率化する物流在庫管理システム

物流在庫管理システムは、商品の入荷から出荷までの物流業務を支援するものであり、入荷受入・検品、出荷指示・検品、返品処理、在庫管理や棚卸における作業を管理し、出荷精度や効率を向上することができます。

“FSCloud Logistics”は、ネット通販を中心に350社以上の導入実績を持つロジガード株式会社の物流在庫管理システム“Logizard-Plus”を採用し、富士ソフトのクラウド基盤からサービス提供しています。

FSCloud®PAM

当社のクラウド基盤を活用したパート・アルバイト雇用管理システム

流通・小売業界向けのシステム開発を主力事業とする当社グループ会社である株式会社ヴィクサスが提供する、パートタイマー・アルバイトの応募から契約管理まで一元的に管理できるSaaS型雇用管理システムです。

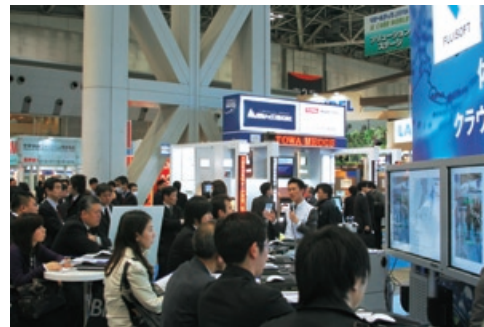
<パブリッククラウド>

～4大パブリッククラウドサービスの提供が可能に～

2011年4月20日よりアマゾン社の「Amazon Web Services(以下:AWS)」を利用したクラウド構築ビジネスを展開致しました。当社は2008年6月のGoogle Apps販売代理店契約をはじめ、Microsoft社、Salesforce.com社とも協業しており、従来からお客様に最適なパブリッククラウドサービスを提供できる体制を整えてまいりました。今回、アマゾン社の「AWS Solution Providers」に認定されたことで「4大クラウド」と呼ばれるパブリッククラウドサービスを全てご提供できるようになりました。

リテールテック JAPAN 2011に富士ソフトグループ3社で出展しました

「リテールテック JAPAN 2011」に、グループ3社(当社・ヴィンキュラムジャパン株式会社・株式会社ヴィクス)共同で出展し、『体感イノベーション クラウド×中国×eコマース』をテーマに、流通BMSソリューションやプライベートクラウドといった流通系向けソリューションをお客様のニーズ別に提案いたしました。



【プライベートクラウドとは】

企業が自社内でクラウドコンピューティングのシステムを構築し、企業内の部門やグループ会社など、特定の利用者に対してクラウドサービスを提供することをいいます。

【パブリッククラウドとは】

クラウドコンピューティングによって運用されるサービス(クラウドサービス)のうち、多種多様な企業や組織、あるいは個人といった、不特定多数の利用者を対象にクラウドサービスを提供する形態のことをいいます。

※流通BMSは財団法人流通システム開発センターの登録商標です。

※流通BMS…流通Business Message Standards(ビジネスメッセージ標準)の略。流通業界におけるメッセージ(電子取引文書)と通信プロトコル/セキュリティに関するEDI標準仕様。

※EDI…Electric Data Interchange(電子データ交換)の略。企業などがコンピュータをネットワークでつなぎ、伝票や文書を電子データで自動的に交換すること。

※Amazon Web Servicesは、米国その他の諸国におけるAmazon.com,Inc.またはその関連会社の商標です。

※GoogleはGoogle Inc.の商標です。

※FSCloudは、富士ソフトの登録商標です。

連結財務諸表 Consolidated Financial Statements

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当期（第41期） 平成23年3月31日現在	前期（第40期） 平成22年3月31日現在
●資産の部		
流動資産	57,534	55,306
現金及び預金	22,045	16,741
受取手形及び売掛金	28,385	27,215
有価証券	163	315
商品	268	295
仕掛品	1,453	2,499
原材料及び貯蔵品	31	34
繰延税金資産	2,665	4,448
その他	2,552	3,821
貸倒引当金	△ 31	△ 64
固定資産	111,881	113,544
有形固定資産	76,343	78,375
建物及び構築物	56,699	56,993
減価償却累計額	△ 17,909	△ 16,204
建物及び構築物（純額）	38,789	40,789
土地	30,415	30,415
建設仮勘定	105	1,394
その他	16,569	13,746
減価償却累計額	△ 9,536	△ 7,970
その他（純額）	7,032	5,776
無形固定資産	11,700	12,424
のれん	4,206	5,026
ソフトウェア	7,096	6,924
その他	397	473
投資その他の資産	23,837	22,744
投資有価証券	15,016	15,861
繰延税金資産	3,239	1,773
その他	5,653	5,258
貸倒引当金	△ 71	△ 148
資産合計	169,416	168,850

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位：百万円)

科目	当期（第41期） 平成23年3月31日現在	前期（第40期） 平成22年3月31日現在
●負債の部		
流動負債	55,099	52,462
買掛金	7,565	8,701
短期借入金	25,553	23,983
1年内返済予定の長期借入金	8,362	7,233
1年内償還予定の社債	44	118
未払費用	6,087	5,854
未払法人税等	782	702
繰延税金負債	6	-
役員賞与引当金	127	146
工事損失引当金	397	122
その他	6,173	5,600
固定負債	30,038	33,090
社債	15	59
長期借入金	21,641	24,202
退職給付引当金	5,112	4,840
役員退職慰労引当金	410	460
繰延税金負債	14	407
その他	2,844	3,119
負債合計	85,137	85,553
●純資産の部		
株主資本	82,991	81,136
資本金	26,200	26,200
資本剰余金	28,438	28,438
利益剰余金	36,453	34,598
自己株式	△ 8,101	△ 8,101
その他の包括利益累計額	△ 9,237	△ 8,825
その他有価証券評価差額金	△ 69	262
繰延ヘッジ損益	5	7
土地再評価差額金	△ 9,051	△ 9,051
為替換算調整勘定	△ 122	△ 44
新株予約権	109	95
少数株主持分	10,415	10,890
純資産合計	84,278	83,297
負債純資産合計	169,416	168,850

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当期(第41期) 平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで	前期(第40期) 平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで
売上高	134,745	141,682
売上原価	103,295	109,813
売上総利益	31,449	31,869
販売費及び一般管理費	27,656	28,575
営業利益	3,793	3,293
営業外収益	1,814	1,461
営業外費用	1,960	1,161
経常利益	3,647	3,592
特別利益	735	3,249
特別損失	542	809
税金等調整前当期純利益	3,840	6,032
法人税、住民税及び事業税	691	1,242
法人税等調整額	300	△4
法人税等合計	992	1,237
少数株主損益調整前当期純利益	2,848	—
少数株主利益	336	1,085
当期純利益	2,511	3,710

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

HPのご案内

当社のHPでは、IR情報やプレスリリース等の最新情報を掲載しております。ぜひ一度ご覧ください。

<http://www.fsi.co.jp/>

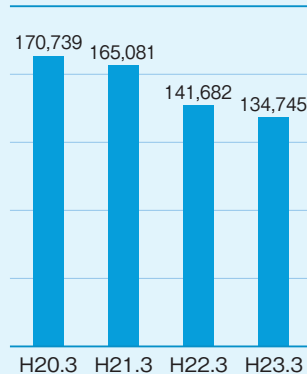


有価証券報告書、四半期報告書については、当社HPの他、金融庁の運営するEDINETでもご確認いただけます。

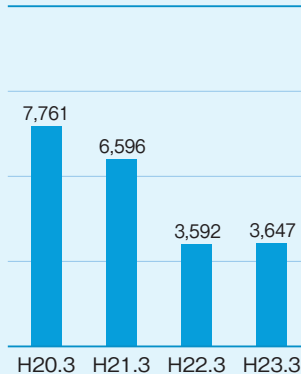
<http://info.edinet-fsa.go.jp/>

財務ハイライト(連結) Financial Highlights

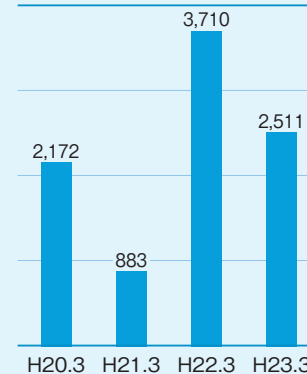
●売上高(単位:百万円)



●経常利益(単位:百万円)



●当期純利益(単位:百万円)



1. 「ロボットアメリカンフットボール全国大会」の開催

ロボットアメリカンフットボールは、ロボット相撲大会に参加する高校生とその指導者から、「みんなで楽しめるロボット競技が出来ないか」という要望があり、ロボット相撲大会を主催する野澤 宏 大会委員長とスタッフによって考案されました。

当社が開発した200台以上が同時に操作できる新ラジコンシステムを使用した複数のロボットと選手で行われる競技で、おそらく世界で初めてといえる団体競技です。

平成23年2月13日に「第6回高校生ロボットアメリカンフットボール全国大会」を開催致しました。全国の予選を勝ち抜いた27チームが参加。文部科学大臣賞、経済産業大臣賞をかけて、個性的で機能的なロボットが、スピーディかつ多彩な戦術を繰り広げました。



2. 「ワーク・ライフ・バランス大賞」奨励賞受賞

IT業界において、メンタル疾患の発症率を低減させるための先進的な取り組みの姿勢を評価され、550団体応募中、大賞、優秀賞(5団体)に次ぐ評価を頂きました。平成22年11月11日に公益財団法人 日本生産性本部により実施された授賞式では、選考委員からも、「今後のIT業界のワーク・ライフ・バランス推進の旗振り役を期待する」とのお言葉を頂きました。



株式の状況 (平成23年3月31日現在) Stock Information

会社概要 Corporate Data

●株式の状況

- 発行可能株式総数 …………… 130,100,000株
- 発行済株式の総数 …………… 35,746,329株
- 株主数 …………… 12,612名
- 単元株式数 …………… 100株

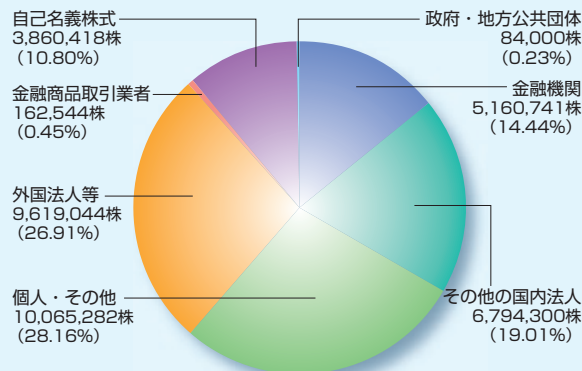
●大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー) サブアカウントアメリカンクライアント	4,301	13.49
有限会社エヌエフシー	3,228	10.12
野澤 宏	2,572	8.07
ノーザントラストカンパニーエイブイエフシーリユー エスタックスエグゼンブテッドベンションファンズ	1,699	5.33
東京センチュリーリース株式会社	1,138	3.57
新井 隆二	1,022	3.21
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	782	2.45
野澤 則子	629	1.97
富士ソフト社員持株会	616	1.93
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	572	1.79

(注) 1. 当社は、自己株式を3,860,418株所有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

●所有者別株式分布状況



●概 要 (平成23年3月31日現在)

名 称 富士ソフト株式会社
 英 語 名 称 FUJI SOFT INCORPORATED
 本社所在地 〒231-8008 神奈川県横浜市中区桜木町一丁目1番地
 TEL : 045-650-8811 (大代表)
 設 立 1970年(昭和45年)5月15日
 資 本 金 262億28万円
 従 業 員 6,051名

●役 員 (平成23年6月27日現在)

代表取締役社長 白石 晴久 ※1
 専務取締役 吉田 實 ※1
 専務取締役 生嶋 滋実 ※1
 常務取締役 坂下 智保 ※1
 常務取締役 今城 浩一 ※1
 取 締 役 相磯 秀夫 ※2
 取 締 役 二見 常夫 ※2
 常勤監査役 石村英二郎 ※3
 監 査 役 澁谷 純治 ※3
 監 査 役 元石 一雄 ※3
 監 査 役 石井 茂雄 ※3

会長(創業者) 野澤 宏
 常務執行役員 河野 文豊
 常務執行役員 山口 昌孝
 執行役員 三本 幸司
 執行役員 常川 健二
 執行役員 竹林 義修
 執行役員 柳 英雄
 執行役員 梶野 洋
 執行役員 渋谷 正樹
 執行役員 木村 宏之
 執行役員 豊田 浩一
 執行役員 千代田 等
 執行役員 佐藤 諭
 執行役員 野澤仁太郎
 執行役員 須藤 勝
 執行役員 田原 大
 執行役員 布目 暢之

※1は執行役員兼務

※2は社外取締役

※3は社外監査役

■株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日	同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
期末配当基準日	3月31日		三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
中間配当基準日	9月30日		TEL：0120-232-711（通話料無料）
定時株主総会	毎年6月に開催		インターネットホームページURL
単元株式数	100株		http://www.tr.mufg.jp/daikou/
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	公告掲載URL	http://www.fsi.co.jp/ir/notify/
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社		ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

■富士ソフトアキバプラザのご案内

「富士ソフトアキバプラザ」は平成19年7月の開業より、多目的利用が可能な複合レンタルスペースとして、数多くのお客様にご利用いただいております。特に、JR秋葉原駅から徒歩2分という抜群の交通アクセスと、カンファレンスやセミナー用途だけでなく、各種イベントや式典、パーティまで対応できる設備で注目を集めています。メインとなる「アキバホール」では、200人規模の講演会や国際シンポジウムレベルのカンファレンスを、最新のDLP※（デジタル・ライト・プロセッシング）プロジェクタと5.1chサラウンドの音響設備を駆使した最良のプレゼンテーション環境で開催できます。また、「レセプションホール」は、カンファレンスやセミナー後のパーティ、会食などを、「アキバホール」と同じフロアで、かつホテルでの華やかさと同様の高質インテリア空間で開催できるだけでなく、展示会やショーなどへもご利用いただけます。さらに、10～100名規模の研修会、セミナーなど、お客様の用途に合わせ選択できる大小の「セミナールーム」を備え、複数会場を「アキバホール」と先進ネットワークで接続し、ライブ配信で300人以上のイベントへも対応できるキャパシティを誇っています。他には、3Dデジタルシネマが上映できるTHX※認証取得の「アキバシアター」でのハイビジョン映像プレゼンテーションや、HDTV仕様で撮影や編集、MA、エンコードから、放送/ストリーミング配信までワンストップで対応できる「アキバ映像スタジオ」など、グローバルスタンダードの映像ソリューションが提供できるハード・ソフトも完備しています。富士ソフトはユビキタス&クラウドインテグレーターとして、「アキバプラザ」を通じて富士ソフトユニークを発信しています。富士ソフトアキバプラザを是非ご利用ください。

※DLPは、Texas Instruments社の登録商標です。※THXは、THX社の登録商標です。
※富士ソフトアキバプラザは、富士ソフトの登録商標です。

富士ソフトアキバプラザ
〒101-0022 東京都千代田区神田練堀町3番地
TEL：03-5209-6285 FAX：03-5209-5261
E-mail：akibaplaza@fsi.co.jp URL：www.fsi.co.jp/akibaplaza
受付時間：平日9:00～18:00



アキバホール



セミナー開催時の様子

※PALRO及びPALROロゴは、富士ソフトの登録商標または商標です。

富士ソフト株式会社 www.fsi.co.jp

本社 〒231-8008 神奈川県横浜市中区桜木町一丁目1番地 TEL：045-650-8811（大代表）

